

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
麻生医療福祉専門学校 福岡校		平成9年2月13日		竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
教育・社会福祉	福祉・教育専門課程	こども未来学科		平成21年文部科学省 告示第22号	—																		
学科の目的	近畿大学九州短期大学通信教育部保育科併修による短大卒(保育科)と保育士資格、幼稚園教諭二種免許の取得とともに、レクリエーションインストラクター資格の取得を目指す。また、人格形成の上で重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を認識し、知識・技術・人間性を高めることで、乳幼児保育の分野で広く活躍できる人材を育成する。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3	年間	3,144時間	1,492時間	714時間	480時間	0時間	554時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
120人		50人	0	4人	30人	34人																	
学期制度	■前 期:4月1日～9月30日 ■後 期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価																		
長期休み	■夏 季:8月11日～9月9日 ■冬 季:12月22日～1月6日 ■春 季:3月15日～4月5日			卒業・進級 条件	ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および学科教員との個別ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 保育園・幼稚園・児童福祉施設 ■就職指導内容 2年次後期より就職実務科目にて就職指導を実施し、3月に就職合宿を行い、就職に対する意識を高める。3年次では就職実務と並行して自主実習を推進し、ミスマッチおよび早期離職の防止に努めている。 ■卒業生数 26 人 ■就職希望者数 25 人 ■就職者数 24 人 ■就職率 : 96.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92.3 % ■その他 ・近畿大学九州短期大学通信教育部保育科 在籍延長:1人 (平成 29 年度卒業者に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>保育士資格</td> <td>①</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	幼稚園教諭二種免許	①	25人	25人	保育士資格	①	25人	25人	社会福祉主事任用資格	①	25人	25人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
幼稚園教諭二種免許	①	25人	25人																				
保育士資格	①	25人	25人																				
社会福祉主事任用資格	①	25人	25人																				
中途退学 の現状	■中途退学者 13 名 ■中退率 17.8 % 平成29年5月1日時点において、在学者73名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者60名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路の変更、健康問題、経済的問題など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科の ホームページ URL	URL: <a href="http://www.asojuku.ac.jp/amfc/subject/child/">http://www.asojuku.ac.jp/amfc/subject/child/</a>																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭二種免許および保育士資格取得のため、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科の併修をし、指定されたカリキュラムで授業科目を編成。また、就職先に対して実施するお客様アンケートにより現場のニーズを把握し科目編成に生かす。なお、実習先へのヒアリング等を基に、指定カリキュラムでは不足している知識・技術を補完するための科目を追加し、現場のニーズに即した授業科目の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
天野 恵	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 主任	平成30年4月～31年3月(1年)	③
阿部 良寛	(一社)福岡県私立幼稚園振興協会 常任理事	平成30年4月～31年3月(1年)	①
渡辺 裕子	(福)宰府福士会 すみれ園 園長	平成30年4月～31年3月(1年)	③
岩下 隆司	麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任		
前田 聖悟	麻生医療福祉専門学校福岡校 専任教員		
上村 仁美	麻生医療福祉専門学校福岡校 専任教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年3回 6月・11月・3月

(開催日時)

- 第1回 平成29年6月24日(土)14:30～16:30  
第2回 平成29年11月10日(金)16:00～18:00  
第3回 平成30年3月2日(金)16:00～18:00

(開催日時 予定)

- 第1回 平成30年6月30日(土)14:30～16:30  
第2回 平成30年11月9日(金)16:00～18:00(予定)  
第3回 平成31年3月1日(金)16:00～18:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員からは特に実習について「目的意識や積極性の低さ、実体験に乏しく想像力が欠如している」などの意見があったため、実習指導の内容を見直し、現場に則した力を強化するため、保育園、小学校、公民館、病院など外部での、室内遊びの提供や合奏・ダンスの実技を増やしていくこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭二種免許および保育士資格取得のための必須の単位実習であり、幼稚園・保育所・児童福祉施設の社会的な役割や保育者の役割、施設の一日の流れ、児童について理解することを目的とする。また、習得した知識・技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的として実施。実習施設の状況および担当クラスに合わせ見学実習・観察実習・部分実習・全日実習等の実習カリキュラムを調整し実施すると共に、課題の設定および達成を行っていく。

さらに、演習においては、可能な限りフィールドワークを実施し、現実生じている事象から学習を深めていくことを重視していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

保育実習では「保育所保育方針」教育実習では「幼稚園教育要領」に基づいた保育が行えるようになることを到達目標とし、1年次後期に教育実習Ⅰ(幼稚園)10日間、2年次前期に教育実習Ⅱ(幼稚園)10日間、後期に保育実習(保育所)10日間、3年次前期に保育実習(児童福祉施設)10日間および保育所または児童福祉施設実習10日間を行う。

なお、それぞれの実習において巡回指導を行い、実習指導者との面談による学生の状態、課題等の確認を行うと共に、学生との面談を行い、課題の確認と達成のためのアドバイス等を行い、実習施設と指導内容等の調整を行う。

実習終了後には各実習施設より事前準備の取り組み、実習態度と意欲、子どもとの関わりと理解、指導計画及び実習日誌の記入、保育の技術、専門職としての適性等の評価項目により評価していただき、実習評価表を提出してもらい、実習評価表を基に学生に対して実習事後指導を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
教育実習Ⅰ	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、見学・観察・参加実習を主とする実習を行う。	博多幼稚園 博多東幼稚園 甘木双葉幼稚園 前原幼稚園 あすなる幼稚園 他
教育実習Ⅱ	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、指導実習(部分実習または全日実習)を行う。	博多幼稚園 博多第一幼稚園 くすの木幼稚園 甘木幼稚園 淡水幼稚園 他
保育実習Ⅰ(保育所)	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	あゆみらい保育園 なかがわ保育園 どんぐり保育園 木の実保育園 だきしめ保育園 他
保育実習Ⅰ(施設)	施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。	若久緑園 田川湯山荘 甘木山学園 菊水学園 鷹巣学園 他
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ(保育)での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、現在求められている子育て支援に必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。	城の原保育園 天星丸保育園 あすなる保育園 内浜保育園 那珂保育所 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:おせっかいワーカー養成講座2017  
連携企業等:ワーカーズコープ九州沖縄事業本部  
日程:平成29年5月29日(月)  
内容:児童福祉法改正とこれからの取り組み  
対象:教員1名

研修名:おせっかいワーカー養成講座2017  
連携企業等:ワーカーズコープ九州沖縄事業本部  
日程:平成29年8月21日(月)  
内容:発達障がいの子どもたち  
対象:教員1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:カウンセリングⅡ  
連携企業等:日本交流分析協会  
日程:平成29年5月24日(月)  
内容:実践で学ぶカウンセリング勉強会  
対象:教員3名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:おせっかいワーカー養成講座2018  
連携企業等:ワーカーズコープ九州沖縄事業本部  
日程:平成30年4月28日～9月14日  
内容:「みんながいけるインクルーシブな居場所・地域の里(さと)をつくろう」をテーマに全13回実施  
対象:教員1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:第1回「九州学びの会」  
連携企業等:九州学びの会  
日程:平成30年8月12日(日)  
内容:「深い学び」の実現に向けて、分科会(授業研究会)および講演を実施  
対象:教員1名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

## (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営・教育活動に関する意見としては、委員より、教師・授業アンケートをWEBアンケートにて実施しているという意見をいただき、本校においても検討する方向とした。保育業界に従事している卒業生及び連携施設等の委員より、保育士の確保と卒業後の離職防止に向けた取り組みについて、卒業後のフォローアップ強化の意見や要望があり、学校単位・学科単位での取り組みに期待しているとの意見が挙がった。保育人材の不足は、この分野を目指す本校学生数の減少とも密接に繋がっており、本学科においてもますます施設や地域とのつながりを密にして、現場の魅力を発信していく機会を増やすため、実習巡回時の卒業生訪問をさらに増やしていくこととした。離職防止に関しては、業界の魅力発信とともに、現状認識にも重点をおくよう、就職実務における施設の方や卒業生の講話の回数を増やし、内容を強化する。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
玉ノ井 敏子	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 園長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
渡辺 裕子	(福)宰府福祉会 児童発達支援センターすみれ園 園長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
桑原 由美子	(NPO)発達障がい者就労支援ゆあしつぷ 理事長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
武田 聡	(NPO)木もれ日 カフェヒュッテ 施設長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
江川 順一	(福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
大庭 欣二	福岡福祉向上委員会 代表	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
占部 尊士	(学)永原学園 西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～平成31年3月(2年)	その他
大澤 利通	(公社)福岡県介護福祉士会 理事	平成30年4月～平成32年3月(2年)	その他
大山 和宏	(一社)福岡県精神保健福祉士協会 会長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	その他
潮田 大介	(有)ケンルック 事務長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
副島 和代	そえじま内科クリニック 事務長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
井上 将彦	(医)聖峰会 マリン病院 事務次長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務部長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
西山 謙	(公社)福岡県病院協会 診療情報管理研究研修会 委員長	平成30年4月～平成32年3月(2年)	その他
熊谷 智彦	(学)久留米学園 久留米学園高等学校 校長	平成30年4月～平成32年3月(2年)	高校関係者
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役	平成29年4月～平成31年3月(2年)	地域住民

西原 真由美	こども未来学科 保護者	平成30年4月～平成32年3月(2年)	PTA
蒲池 桂子	福祉心理学科 保護者	平成30年4月～平成32年3月(2年)	PTA
尾下 千賀子	ソーシャルワーカー科 保護者	平成30年4月～平成32年3月(2年)	PTA
木下 典子	医療秘書科 保護者	平成29年4月～平成31年3月(2年)	PTA
塚本 のり子	医療情報科 保護者	平成29年4月～平成31年3月(2年)	PTA
所崎 あすか	診療情報管理士科 保護者	平成29年4月～平成31年3月(2年)	PTA
眞島 顕弥	こども未来学科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
田中 隼平	心理カウンセラー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
池上 幸子	介護福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
大本 栞	医療秘書科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
庄崎 綾乃	医療情報科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/>

公表時期:平成29年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、ASOの考え方、4つの特徴
(2)各学科等の教育	学科コース一覧、国家資格・検定、就職情報、入学案内
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧))

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(福祉・教育専門課程 こども未来学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			教育心理学	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を考える。	1前	16		○			○					
○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、教育に関する基礎的な概念と知識の習得をはかると共に、将来あるいは現在、保育者として、親として、一人の大人として、現実一人ひとりの子どもに具体的にどのように対処していけばいいのか、あるいは実際の教育問題にどう対処しどう解決していけばいいのかなどといった教育をめぐるきわめて重大な課題をより幅広く柔軟な視野で自分なりに考え実践していくための基礎を培う。	1前	30		○			○					
○			造形表現（指導法）	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1前	30		△	○		○					
○			教育課程総論	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	1前	30		○			○					
○			人間関係（指導法）SC	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。	1前	16		△	○		○					
○			造形表現（指導法）SC	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1前	16			○		○					
○			音楽表現（指導法）SC	0才からの音楽的あやし言葉かけ遊び、月令、年齢に応じた手遊びやリズム遊び、歌唱曲を動きのある遊びに創作したり、それを実践するなど遊びを中心に実践する。	1前	16				○		○				
○			環境（指導法）SC	現代の環境で子ども達の生きる力を培うための保育の工夫、すなわち、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に、子どもの自然とのかかわりを深める保育の実践的指導能力の育成を目指す。	1前	16			○			○				
○			音楽表現 I	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1前	48					○	○				



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			合奏 I	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	1前	16				○	○			○	
○			養護原理	社会的養護を必要とする子どもの現実と養護実践の課題を学ぶ	1前	30		○			○				○
○			教育実習指導 I	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	1前	30		○	△		○			○	
○			実習実務 I	実習先への電話の掛け方、実習生個人票の作成、オリエンテーションでの確認事項、実習先訪問の際の注意点など、実習前の準備等を指導・確認していく	1前	16		○			○			○	
○			保育実技 I	幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（入門編）	1前	30					○	○			○
○			レクリエーション I	レクリエーションインストラクターの役割について理解し、レクリエーション活動支援の理論を習得する。	1前	30			○		○				○
○			コミュニケーション論	コミュニケーションの基礎について学び、カウンセリングの初歩的な技法を習得する。	1前	16		○			○				○
○			レクリエーション演習	レクリエーション援助の方法と技術とは何かを考え、支援の考え方の変化を学ぶ。	1前	30			○		○			○	
○			ペン字 I	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧を書く意識を持つ。	1前	16			○		○				○
○			一般教養 I	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	1前	16		○			○			○	
○			交流ゼミ I	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	1前	16			○		○			○	
○			GCB I	「感謝と思いやり」をテーマに、人間力、集団力、マナーの本質、行動力を学ぶ。	1前	16		○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携			
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任				
○			教育方法論	教育の方法に関する理論的知識を習得する。また、乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し、説明ができるとともに、保育現場における実践を構想できる力を培う。	1 後	48		○			○			○				
○			教職概論	教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目標とする	1 後	30		○			○			○				
○			社会的養護	福祉に欠ける児童の生存権、発達権を保障し、健全育成を目指すために、児童福祉施設入所児童に対する、社会的養護の基本的なあり方（養護についての考え方、および児童の保護（衣・食・住）、指導、治療権利擁護、自立支援などについての理論と実際を専門的に、科学的に探究すること）を学ぶ。	1 後	30		○			○				○			
○			健康科学	スポーツ活動との関連の中で健康や体力に関する知識や関心を高めることにくわえ、合理的な運動実践の習慣化を図る上での条件整備のあり方について学ぶ。	1 後	16		○			○					○		
○			教育心理学 S C	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を学ぶ。	1 後	16		○			○					○		
○			音楽（器楽・声楽）① S C	幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。	1 後	16				○		○				○		
○			劇あそび（指導法） S C	幼児期に豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするねらいのもと、幼児の心身の発達を促し、リズム感をつけるとともに、体を通して、感じたこと、思ったこと、考えたことなど動きで様々な表現が出来るよう、指導・援助法を学ぶ。	1 後	16				○	○						○	
○			健康（指導法） S C	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目指す。	1 後	16		○			○						○	
○			言葉（指導法） S C	言葉（言語）の発達に関する理論、言葉の発達における子どもを取り巻く環境の影響について、特に「コミュニケーション」に着目し、その理論を理解する。また、保育所保育指針「領域言葉」を理解し、子どもの言葉をはぐむ保育者のかかわり方について検討し、理解を深める。	1 後	16		○			○						○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			教育実習事前事後指導SC	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と幼稚園における教育実践とを具体的に統合することによって教育実習に対する意欲や課題意識を高める。	1後	16		○	△		○			○	
○			教育実習 I	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、見学・観察・参加実習を主とする実習行う。	1後	80				○		○		○	○
○			音楽表現 I-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1後	48				○	○				○
○			合奏 I-②	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	1後	16				○	○				○
○			教育実習指導 I-②	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	1後	30		○	△		○			○	
○			実習実務 II	実習先への電話の掛け方、実習生個人票の作成、オリエンテーションでの確認事項、実習先訪問の際の注意点など、実習前の準備等を指導・確認していく	1後	16		○			○			○	
○			保育実技 I-②	幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	1後	16				○	○				○
○			レクリエーション II	レクリエーションインストラクターの役割について理解し、レクリエーション活動支援の基礎技術を習得する。	1後	30			○		○				○
○			カウンセリング概論	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	1後	30		○			○				○
○			乳幼児の発達 I	乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の過程や生活環境など、子どもの発達の全体的な姿を把握する	1後	16		○			○				○
○			ペン字 I-②	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧を書く意識を持つ。	1後	16			○		○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			一般教養Ⅰ-②	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	1後	16		○			○		○			
○			総合演習Ⅰ	各授業で学んだ内容のつながりを認識し、知識を深める	1後	30			○		○		○			
○			五領域	保育園や幼稚園における教育内容である「五領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）について、各領域の関連性や内容を複合的に理解する	1後	16		○			○		○			
○			交流ゼミⅠ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	1後	16			○		○		○			
○			児童家庭福祉	将来を担う子どもたちに向かう児童家庭福祉実践者として、基本的・体系的に学習し、現在の児童家庭福祉（子ども家庭福祉）に関する知識と理解をしていく。	2前	30		○			○			○		
○			保育原理	保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を培うこと、そして保育が直面している現実的・今日的で切実な課題にあたることにより、各人が課題意識を持って問題を掘り下げ、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識を持つ。	2前	30		○			○				○	
○			子どもの保健Ⅰ①	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発達と各期の特徴、子どもの保健行政について理解する。	2前	30		○			○				○	
○			幼児体育Ⅱ	幼児期と小学校低学年段階との発達的な関連からその体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討し、特に、幼児体育を実践する上で必要な保育技術と教材づくりに関する実践的知識を習得する。	2前	16				○	○				○	
○			図画工作Ⅱ	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関する基礎知識と表現技術の授業を行い、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成する。	2前	16			○		○				○	
○			子どもの食と栄養	小児の発育・発達の特性、栄養に関する基本的な知識をふまえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食（保育所給食）、食教育の重要性を理解する。	2前	16		○			○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
○			子どもの食と栄養SC	保育者として小児に適切な食事を提供することができるよう、各時期の栄養法を理解し、調理技能の修得をめざす。	2前	16				○	○			○			
○			生涯スポーツSC	高齢者、障がい者をも含めた各種スポーツの技能の向上を中核目標としながら、それに関わるスポーツ発展史（ルール史、用具史、戦略・戦術史）の理解を深めたり、国民スポーツの諸相と課題について学ぶ。	2前	16				○		○			○		
○			図画工作SC	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関する基礎知識と表現技術の授業を行い、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成する。	2前	16				○	○				○		
○			保育内容総論SC	保育所保育方針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解すると共に、擁護と教育が一体的に展開することを、具体的な保育実践につなげて理解する。また、保育現場を取り巻く諸問題を複眼的にとらえ、保育の多様な展開に対応できる知識や技術を身につける。	2前	16			○			○				○	
○			言語表現SC	保育者として、子どもの発達段階にあった絵本や紙芝居などを提供するための知識、読み聞かせの技術について学ぶ。また、子どもが児童文化財に親しむために必要な、言語環境の整備の方法について理解し、遊びを通して子どもが積極的に児童文化財を経験できる方法について理解する。	2前	16			○	△		○			○		
○			教育実習Ⅱ	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、指導実習（部分実習または全日実習）を行う。	2前	80					○		○		○	○	
○			音楽表現Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2前	48					○	○				○	
○			合奏Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	2前	16					○	○				○	
○			教育実習指導Ⅱ	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2前	16			○	△		○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育園実習指導Ⅰ	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2前	16		○	△		○		○		
○			保育実技Ⅱ	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（入門編）	2前	16				○	○			○	
○			カウンセリング演習	カウンセリングの基礎について学び、実践的なカウンセリング技法を習得する。	2前	16			○		○			○	
○			乳幼児の発達Ⅱ	乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の過程や生活環境など、子どもの発達の全体的な姿を把握する	2前	16		○			○			○	
○			オペレッタⅠ	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	2前	16			○		○			○	
○			一般教養Ⅱ	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	2前	16		○			○			○	
○			交流ゼミⅡ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2前	16			○		○			○	
○			情報処理入門Ⅰ	情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア／ソフトウェアについて理解する。	2後	30			○		○			○	
○			家庭支援論	社会の変化によって現在の家族がどのように変わってきているか。今まで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考えると共に、子育てを通し親や地域社会への援助の必要性とその方法を理解する。また、保育所の他にも、保健福祉センター、児童相談所、病院などの施設や機関、また子育てサークルなどの民間の団体が、社会のニーズにどのように対応しているか、その役割と機能を理解する。	2後	30		○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			障害児保育	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達的变化を促す保育的援助について考える。	2後	16		○			○				
○			健康Ⅱ	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目指す。	2後	16		○			○				
○			英会話Ⅰ	日常の会話を英語でも楽しむことができるようになるために、簡単な会話にも欠くことができない基礎的な事柄を学ぶ。	2後	16			○		○				
○			英会話ⅠSC	日常の会話を英語でも楽しむことができるようになるために、簡単な会話にも欠くことができない基礎的な事柄を学ぶ。	2後	16			○		○				
○			音楽（器楽・声楽）②SC	幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。	2後	16				○		○			
○			保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）SC	保育実習（保育所）を円滑に行うために、保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画書の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2後	16		○	△		○		○		
○			情報処理入門ⅠSC	Word（ワープロ）・Excel（表計算）・Power Point（プレゼンテーション）のオフィススイートの基本操作を習得する。	2後	16			○		○		○		
○			幼児体育SC	幼児期と小学校低学年段階との発達的な関連からその体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討し、幼児体育を実践する上で必要な運動遊びのレパートリーを習得すること、さらに、そうした遊びの連続性・発展性を広げていく上での視点に関わった実践的知識を習得する。	2後	16					○		○		
○			保育実習Ⅰ（保育所）	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	2後	80					○		○	○	○
○			音楽表現Ⅱ-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2後	48					○	○			○
○			合奏Ⅱ-②	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	2後	16					○	○			○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育園実習指導Ⅱ	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2後	30		○	△		○		○		
○			児童福祉施設実習指導Ⅰ	児童養護施設等の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。	2後	16		○	△		○		○		
○			保育実技Ⅱ-②	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	2後	16				○	○			○	
○			オペレッタⅠ-②	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	2後	30			○		○		○		
○			一般教養Ⅱ-②	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	2後	16		○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	2後	16		○			○		○		
○			総合演習Ⅱ	1年次の学習内容を踏まえ、より実践的な指導方法を学ぶ	2後	30			○		○		○		
○			保育製作	保育教材研究を通して、道具の使い方や保育教材の作り方、注意点などの理解を深める	2後	16		△	○		○		○		
○			交流ゼミⅡ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2後	16			○		○		○		
○			GCBⅡ	「志を立てる」をテーマに、夢・ビジョン・志、国際社会、成功者、自己変革を学ぶ。	2後	16		○			○		○		
○			子どもの保健Ⅰ②	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発育と各期の特徴、子どもの保健行政について理解する。	3前	30		○			○		○		



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			日本国憲法	日本国憲法の全体的な枠組みを体系的に理解しながら、憲法が求めている理念とは何か、また、現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対するリーガルマインドを養っていく。	3前	30		○			○			○	
○			発達心理学	発達心理学者として乳幼児教育に多大な影響を与えたJ. McV. ハント博士の理論を通して乳幼児の精神発達とその教育について学ぶ。	3前	30		○			○			○	
○			乳児保育	3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援する者としての保育者の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての知識や技能を習得する。	3前	16		○			○			○	
○			社会福祉	将来において「児童の福祉」を推進する保育士に必要な社会福祉の基本的な事項を学ぶ。	3前	30		○			○			○	
○			教育相談	子どもの世界や保育士の役割についての理解を深めることを通して、子どもや家族への支援スキルの基礎を学ぶ	3前	30		○			○			○	
○			保育・教職実践演習	自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。また、保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力の習得、および使命感と職務内容について理解する。	3前	16		△	○		○			○	
○			社会的養護内容Ⅱ	社会的養護内容の中でも特に施設用語に焦点をあてて、各種自動施設における目的と機能、養護プログラムの展開、児童処遇の実際を理解する。また、専門職員の職務内容の理解や連携の理論を学習すると共に、児童の正常な成長と発達を保障し、援助することのできる知識、技術の習得と児童館の醸成を図ることを目的とし、実践的な保育力を培うために可能な限り現場を意識し、実際の場面を騒動し体感する学びを実施する。常に理念と並行して具体的な子どもへの関わりのスキルを学ぶ。	3前	16		○			○			○	
○			保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）SC	保育実習（施設）の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。また、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。なお、実習後には実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	3前	16		○	△		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		【選択】保育実習事前事後指導ⅡSC	保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深め、さらに、指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。 (保育実習事前事後指導ⅡSCと保育実習事前事後指導ⅢSCのいずれかを選択)	3前	16		○	△		○		○		
	○		【選択】保育実習事前事後指導ⅢSC	子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家族への支援など保育の実践力を養うことを目的とする。さらに、児童福祉施設以外の施設についても理解を深める。 (保育実習事前事後指導ⅡSCと保育実習事前事後指導ⅢSCのいずれかを選択)	3前	16		○	△		○		○		
○			乳児保育SC	3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援する者としての保育者の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての知識や技能を習得する。	3前	16		○			○			○	
○			子どもの保健ⅡSC	子どもの健康と生命を守るための実践力を身につける。	3前	16		○			○			○	
○			保育相談支援SC	保護者支援の意義や基本を理解した上で、保護者支援の方法や技術を学ぶ。	3前	16		○			○			○	
○			障害児保育SC	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達的变化を促す保育的援助について考える。	3前	16		○			○			○	
○			社会的養護内容SC	養護原理をふまえて、社会的養護の中でも特に施設養護に焦点をあてて、各種児童施設における目的と機能、養護プログラムの展開、児童処遇の実際を理解する。	3前	16		○			○			○	
○			相談援助SC	将来に保育士を目指す者にとって必要とされる相談援助活動(社会福祉援助技術)の基礎を修得する。	3前	16		○			○			○	
○			保育実習Ⅰ(施設)	施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。	3前	80					○		○	○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		【選択】保育実習Ⅱ	保育実習での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力。技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。 (保育実習Ⅱと保育実習Ⅲ(施設)のいずれかを選択)	3前	80			○		○	○	○	○	
	○		【選択】保育実習Ⅲ	保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と理論を基盤として、保育士として必要な資質・能力・技術の向上を目的とする。また、施設をとりまく家庭と地域の生活実態にふれ、家庭福祉ニーズに対する理解力を深め、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことを目的とする。 (保育実習Ⅱと保育実習Ⅲ(施設)のいずれかを選択)	3前	80			○		○	○	○	○	
○			音楽表現Ⅲ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、より実践的な音楽指導法を身に付け、スキルの向上を目指す。	3前	30			○	○				○	
○			ペン字Ⅱ	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧を書く意識を持つ。	3前	16			○	○				○	
○			一般教養Ⅲ	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	3前	16			○	○				○	
○			児童福祉施設実習指導Ⅱ	児童養護施設等の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。	3前	30		○	△	○				○	
○			保育園実習指導Ⅲ	保育所の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。 (施設実習指導と保育実習指導のいずれかを選択)	3前	16		○	△	○				○	
○			オペレッタⅡ	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	3前	16			○	○				○	
○			卒業論文Ⅰ	保育や幼児教育などに関するテーマを設定し、グループ調査・研究を通して論文としてまとめ、発表を行う。	3前	16			○	○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職実務Ⅱ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3前	30		○			○		○		
○			交流ゼミⅢ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3前	16			○		○		○		
○			保育・教職実践演習SC	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が保育現場で発揮できるよう、形成されているかどうかを検討する。	3後	16			○		○		○		
○			保育相談支援	保護者支援の意義や基本を理解した上で、保護者支援の方法や技術を学ぶ。	3後	16		○			○			○	
○			音楽表現Ⅲ-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、より実践的な音楽指導法を身に付け、スキルの向上を目指す。	3後	30				○	○				○
○			マナー	名刺交換など初対面のビジネスマナー、社会人一年目の正しい言葉遣い、保護者対応、職場内でのマナー、連絡帳の記入方法などを身に付ける。	3後	16		○	△		○				○
○			ペン字Ⅱ-②	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧に書く意識を持つ。	3後	16			○		○				○
○			障害児保育Ⅱ	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解をさらに深めていく。そして、障害児の発達的变化を促す保育的援助について考える。	3後	30		○			○				○
○			保育実技Ⅲ	保育士・幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、製作、遊びなど）を自ら考え、実行できる能力を身に付ける	3後	16				○	○				○
○			児童家庭福祉Ⅱ	「児童家庭福祉」で習得した児童家庭福祉全般についての基礎知識と「相談援助」で学ぶ社会福祉の専門的方法を基礎として、児童の生存権や発達権を保障するためのすべての子どもや家庭に対するサービスの援助技術・方法の基本的知識に関する理解を深める。	3後	16		○			○				○
○			保育・教職実践演習Ⅱ	自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。また、保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力の習得、および使命感と職務内容について理解する。	3後	30			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養Ⅲ-②	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	3後	16		○			○		○		
○			自主実習演習	保育所、幼稚園、施設等への実習やボランティアを通して、更なる知識、技術の向上を目的とする。また、実習・ボランティア先との連絡や準備等、主体的に活動を行うことで自主性、積極性の醸成を目的とする	3後	30			○		△	○	○		
○			選択授業	各自の知識、技術の向上を目的に、ピアノ技術の向上や障害児の知識などを学ぶ	3後	16		○			○			○	
○			卒業論文Ⅱ	保育や幼児教育などに関するテーマを設定し、グループ調査・研究を通して論文としてまとめ、発表を行う。	3後	48		○			○		○		
○			就職実務Ⅲ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3後	30		○			○		○		
○			自然体験基礎	動植物に触れる機会を設け、子どもたちへの指導方法を学ぶ	3後	30			○		○		○		
○			交流ゼミⅢ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3後	16			○		○		○		
合計					133科目		3,144単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。</li> <li>学年の出席率が90%以上であること。</li> <li>学生としてふさわしい生活態度であること。</li> </ul>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週